

日本語表現科目事例検討会(2013年9月14・15日)参加者アンケート抜粋

【参加者】

参加人数：14名（うち事例発表者8名）

日本語表現デザイン塾メンバー：9名（うち事例発表者1名）

1. 事例検討会に参加しての感想をお聞かせください。

- ・他大学で奮闘されている諸先生方と知り合え、また数多くの実践例からヒントを得ることができました。今や「日本語表現科目」は一部の専門の教員が担当すべきものではなく、すべての大学教員が担当すべき科目です。この検討会の試みはもっともっと拡がって良いし、積極的に情報発信もしていくべきなのだと思います。
- ・どこの大学でも、全学で展開するには多大な苦勞を伴うのだと分かりました。皆さんそれぞれ頑張っているのだから、自分も頑張ろうと思えました。
- ・報告させていただいて、自分のやっていたことを客観的に整理でき、また、さまざまな事例を知ることができ、勉強になりました。
- ・他学の事例を拝見し、具体的方法（例えばレポートの題名の決め方、文字数など）が大変参考になりました。本学で導入できる点は無いかという視点で聞かせて頂いた。また、運営に関して諸先生は様々な根回しをされていることを知り、そういった準備があつてこそその授業なんだなと感じました。
- ・河合塾のFDはとにかくハード。ただ、緩いよりははるかに集中して取り組める。また、同じような悩みを抱え、同じ志を持つ先生方と“場”を共有するということは非常に貴重な時間であると感じた。普通は授業に関する個人の“悩み”は一つ間違ふと“愚痴”になりかねないが、そうならずに生産的な話に繋げようとする雰囲気良かった。
- ・普段、他大学の実践例を聞くことはほとんどないので、事例報告をたっぷり聞いたことはとても貴重な機会でした。2日目のワールドカフェも気楽に多くの意見を出し合えて刺激を受けることができました。
- ・学会発表とは異なり、少人数で共通する課題を抱えた大学間で話し合えたことは、大きな収穫でした。まさに「対話」が成立し、心的な部分での支えをいただきました。しかも、ただの愚痴の言い合いではなく、ワールド・カフェ方式を用いることで、様々な課題や解決の糸口が見えたところが、前進になりました。

2. 事例検討会に参加し、参考になったとお思いになる点がございましたらお教えてください。

- ・ワールドカフェで、私が「(学生が)しゃべりたくないのだったら無理にしゃべらせなくても良いのではないかと発言したところ、他の先生から「しかし、それでは就職ができない。社会に適應できるようにするのも教育です」と返され、「なるほど」と納得しました。

た。立ち位置が変わると、課題も変わることを実感しました。

- ・つながれそうな人からつながるという発想が得られたこと。「気づきあう」授業は一般的に難しいのだと再確認できたこと。

- ・各大学での工夫。同じような内容でも、授業の組み立て方やグループワークなどの取り入れ方によって変わってくるということがわかりました。

- ・他学でのさまざまな具体的事例。この他、ワールドカフェの中で、具体的な助言を頂きました。

- ・2日目の最後で、各大学の授業実践の課題を系統立ててまとめてくださり、自分の大学の問題点もすっきりと整理できました。解決へのヒントもたくさん得られたと思います。

3. 事例検討会に参加し、ご自身にとって今後の課題であると感じた点をお教えてください。

- ・担当教員間の連携

- ・私自身は大学で「レポート・論文」を「どのように教えるか」にこだわっていました。しかし、全入時代を迎えた今「何を教えるか」という根本に立ち戻る必要性を感じました。

- ・教員間の協働が大問題です。

- ・学生主体型への移行

- ・授業内容の絞り込み

- ・1. 学生の活用＝従来も学生をリソースとして使うことはしてきたが、さらに発展させてLAとして使う、等の多様なリソースとしての活用の仕方 2. ジェネリックスキルとのつながりを意識すること 3. 評価のあり方

- ・もっと担当者同士の話し合いを密にして、誰がやってもうまくいく、単純な授業デザインを考えたいです。

- ・他大学の先生から直接ご指導いただいたが、「もっと学生を信じて、自分たちでやらせなさい」というお言葉が心に響き、後期はもっと自由にやらせる方法を考案することが課題です。

- ・レポート作成やポスター作成、読書支援など幅広い初年次教育日本語表現科目の課題に、バランスを作って考えてみたいところでは。

- ・評価については、よくわからないままです。今後、勉強していきたいと考えています。

4. 今後、日本語表現デザイン塾にセミナーや検討会で取り扱ってほしいテーマ、題材がございましたら、お教えてください。

- ・「評価」はいずれテーマになるでしょうか。(私にとっては一番頭の痛いテーマです)

- ・事例検討会ではなく、授業検討会というのも面白いかもしれません。課題を与えられて、その場で授業をし、互いに批評し合うというものです。

- ・今回のような表現科目授業事例検討会をもう少し時間に余裕を持って行ってほしいです。今回はお互いで検討するまでにはいけなかったと思います。各自が抱えている最大の問題を

出して、それに対してのアドバイスを皆で出し合うなど、担当者だからこそ出てくるお知恵を拝借できる場を設けていただけたらと思います。

- ・実際の（事例報告の）模擬授業を体験してみたい。
- ・可能であれば、日本語の表現の具体的授業内容に加えて、“導入科目”として学生とどれだけ交流をするか（面接の実施、ポートフォリオ作成 など）なども扱って頂けると有り難いです。
- ・今回の内容を聞くと、かなりの先生方が、協力者との関係・方針徹底や制度的な面で御苦労されていることが分かったので、教員間の協働の成立要件やそれを支援するストック、HPの構築といった点がテーマになるのではないかと。また、「内容」と「活動」の関連ということもより深く考える機会があると良い。あとはやはり評価のあり方をどうするか、が重要である。
- ・学部での取り組みの違い、なかでも「教育学部」の初年次教育日本語表現の取り組みについて、扱っていただきたいです。というのは、小学校から大学までを「教育」という括りのなかで、捉えられる唯一の学部であるので、教育学部の変容がもたらす効果は大きいのではないかと考えています。
- ・初年次から4年生卒論までのライティング支援の経緯や段階を模索している事例が知りたいです。
- ・チューターやTAなどの対応、対話についての話題を取り上げていただきたい。